

人には誰しも忘れられない、また、忘れてはならない日がある。

今年も8月15日の終戦記念日がやって来た。

夏休み中の子供たちは、家族で旅行に出かけたり、おじいちゃんやおばあちゃんの家で自然に触れたり、楽しさを満喫する時期だ。

子供たちの駆け回る姿や、楽しそうな声とは裏腹に、ぐったりと疲れ切った親たちの表情がとてもほほえましい。私もかつてこうだったと懐かしく、胸が熱くなる。

戦後72年たって、戦争体験者や被爆者が次々と亡くなられていく。今こそが私たちの正念場だ。日本は、戦争を知らない世代だけになっていくのだ。

戦争を知らない世代は自ら歴史を学び、戦争がなんたる

8月15日 平和の意味を考える



か、人類はなぜ恐ろしい悲劇を繰り返してきたのか、その凄惨な過去としっかり向き合いたい。

また、日本はこの地球上で唯一の被爆国である責務を自覚すべきだ。戦争は人間を人間でなくしてしまう。どんな理由であれ、良い戦争などありはしない。どんな人であれ、尊厳を奪われ、残忍非道に生命を絶たれることがあってはならない。

これからも子供たちの屈託のない笑顔を見続けたい。子供たちに甘えられ、疲れ切っ

た大人たちの様子を眺めてほほえみたい。

日常生活に手いっぱいでも平和について考える余裕はないし、悲惨な過去からは目を背けたいという人もいるかもしれない。でも、思い出して、忘れないでほしい。

私たちが忘れない限り、きっと過ちは繰り返されない。

無邪気な子供たちの楽しい夏休みがずっと続くよう、さあ、向き合おう。

(さとう・しのぶ=声楽家)

—毎月第3金曜日掲載

